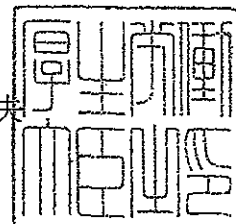


厚生労働省発食安第1124006号  
平成 1 8 年 1 1 月 2 4 日

薬事・食品衛生審議会  
会長 井村 伸正 殿

厚生労働大臣 柳澤 伯夫



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

アゾキシストロビン



平成19年4月24日

薬事・食品衛生審議会

食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会報告について

平成18年11月24日厚生労働省発食安第1124006号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくアゾキシストロビンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。



(別添)

## アゾキシストロビン

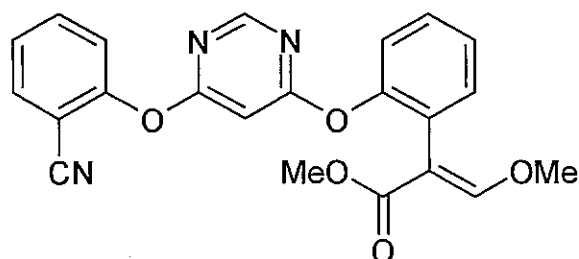
1. 品目名：アゾキシストロビン (Azoxyastrobin)

2. 用途：殺菌剤

ストロビルリン系殺菌剤である。エネルギー生成に重要な役割を果たしているミトコンドリアの電子伝達系の中のコハク酸-C<sub>o</sub>Qリダクターゼ間の電子伝達を阻害することにより作用すると考えられる。

3. 化学名：メチル= (E)-2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート

4. 構造式及び物性



分子式  $C_{22}H_{17}N_3O_5$

分子量 403.4

水溶解度 6.0 mg/L (20°C)

分配係数  $\log Pow=2.5$  (20°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名となっているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

また、申請者から、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」（平成16年2月5日付け食安発第0205001号）に基づき、コーヒー豆に設定されている残留基準の変更が要請されている。

(1) 国内における使用方法

①20.0%アゾキシストロビン水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
小麦	紅色雪腐病	原液	4~8mL/ 乾燥種子 1kg	は種前	1回	種子吹き 付け処理	4回以内 (種子への処 理は1回以 内、は種後は 3回以内)
	うどんこ病 赤かび病 赤さび病	2000~ 3000倍	100~200 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	
だいず	紫斑病		100~400 L/10a				収穫21日前まで
		16~ 24倍	800mL/10a				
あずき	炭疽病	2000倍	100~400 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
いんげんまめ			60~200 L/10a				
エンダイブ			菌核病				
きゅうり	うどんこ病 べと病	1500~ 2000倍	100~ 400L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
	灰色かび病 菌核病	1500倍					
	褐斑病、炭疽病						
にがうり	うどんこ病 べと病、炭疽病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯れ病 べと病、炭疽病	1500~ 2000倍					
メロン	うどんこ病 つる枯れ病 べと病	2000倍		収穫前日まで			4回以内

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数															
すいか	つる枯病 炭疽病	2000倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内															
トマト	葉かび病 灰色かび病																					
なす	うどんこ病 すすかび病																					
ピーマン	灰色かび病																					
たまねぎ	灰色腐敗病 べと病																					
らっきょう	さび病							収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内											
ねぎ	さび病							収穫7日前まで	4回以内		4回以内											
わけぎ	べと病																					
あさつき	黄斑病、黒斑病							収穫3日前まで	散布			4回以内										
にら	白斑葉枯病							収穫14日前まで					2回以内									
にんにく	さび病							収穫7日前まで					3回以内	散布	4回以内							
だいこん	白さび病							収穫14日前まで														
キャベツ	菌核病							3L/m <sup>2</sup>					収穫7日前まで			4回以内	散布	4回以内				
はくさい	べと病 黒斑病 白さび病																					
パセリ	うどんこ病																		収穫45日前まで	1回	散布	1回
みつば	灰色かび病																		収穫14日前まで			
みょうが (花穂)	紋枯病	3L/m <sup>2</sup>	収穫3日前まで	2回以内	土壌灌注	2回以内																
みょうが (茎葉)			みょうが(花穂)の 収穫3日前まで 但し、花穂を収穫し ない場合にあつては 開花期終了まで																			
非結球 あぶらな科 葉菜類 (ただし、し ろな、チンゲ ンサイを除く)	白さび病	100～400 L/10a	収穫21日前まで	散布	散布																	

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数				
しろな	白さび病	2000 倍	100～400 L/10a	収穫 14 日前まで	1 回	散布	1 回				
しそ	斑点病			収穫前日まで	2 回以内	株元散布	2 回以内				
クレソン				収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内				
葉ごぼう	うどんこ病			1 回	収穫 30 日前まで		1 回	1 回			
こおにたびらこ	菌核病								4 回以内	4 回以内	4 回以内 (土壌灌注は2 回以内)
ははこぐさ											
せり	葉枯病		3L/m <sup>2</sup>	収穫 7 日前まで	4 回以内		4 回以内				
レタス	菌核病 灰色かび病 ビッグベイン病	収穫 30 日前まで		2 回以内	土壌灌注	2 回以内					
いちご	うどんこ病	1500～ 2000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	苗床 4 回以内	散布	7 回以内 (苗床では 4 回以内、本圃 では 3 回以 内)				
	炭疽病	2000 倍									
	灰色かび病	1500 倍			本圃 3 回以内						
	うどんこ病	1500～ 2000 倍									
	炭疽病	2000 倍									
	灰色かび病	1500 倍									
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	2000 倍	100～400 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	4 回以内					
ズッキーニ	うどんこ病				2 回以内	2 回以内					
畑ワサビ (花穂を除く)	白さび病										
かぶ	うどんこ病				3 回以内	3 回以内					
オクラ											
さやえんどう							収穫前日まで	3 回以内	3 回以内		
実えんどう	灰色かび病										
てんさい	根腐病	1500～ 2000 倍	100～400 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	3 回以内					
	葉腐病、褐斑病	1500 倍									
茶	炭疽病、輪斑病 新梢枯死病（輪 斑病菌による）、もち病	2000 倍	摘採 14 日前まで								



②10.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
なし	黒星病 黒斑病 輪斑病 うどんこ病 炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	5 回以内
ぶどう	黒とう病 灰色かび病 べと病 枝膨病 晩腐病 褐斑病 さび病			収穫 45 日前まで			
おうとう	灰星病			収穫前日まで			
もも	灰星病						
ネクタリン	黒星病						
いちじく	そうか病 疫病			1500 倍	200～700 L/10a		収穫前日まで
すもも	灰星病 すす点病						
うめ	黒星病						
パッションフルーツ	円斑病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	3 回以内	
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病 黒点病						収穫 7 日前まで
りんご (ふじ、王林、 ジョナゴールド、 つがる、千秋、 さんさ、紅玉、 シナノスイート、 鼻林、涼香の季節)	うどんこ病						収穫 45 日前まで
びわ	炭疽病						収穫 7 日前まで

②10.0%アゾキシストロピン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数
マンゴー	炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
グアバ (果実)				収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内
ピタヤ	炭腐病			収穫前日まで			

③8.0%アゾキシストロピン水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	1000～ 1500 倍	100～200 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布 は 1 回以内、 本田では 3 回以内)
	稲こうじ病 穂枯れ (すじ葉枯病菌) 変色米 (カープラリア菌) 変色米 (エビコッカム菌) 変色米 (アルタナリア菌)	1000 倍					
		原液					
		8 倍	800mL/10a			空中散布	
		30 倍	3L/10a				
		8 倍	800mL/10a				
		300 倍	25L/10a	散布			

④1.5%アゾキシストロビン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病	4kg/10a	出穂 10～30 日前	3 回以内	散布	4 回以内 (本田では 3 回以内)

⑤0.6%アゾキシストロビン粉剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	4kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (本田では 3 回以内)

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシ ストロビ ンを含む 農薬の総 使用回数	TPNを 含む農薬 の総使用 回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 灰色かび病 菌核病 黒星病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内	10 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、 散布及びく ん煙及びエ アゾル剤の 噴射は合計 8 回以内)
かぼちゃ	うどんこ病 べと病			収穫 7 日前まで	3 回以内			3 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病			収穫 3 日前まで	4 回以内			5 回以内

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシ ストロビ ンを含む 農薬の総 使用回数	TPNを 含む農薬 の総使用 回数	
すいか	炭疽病 つる枯病	1000 倍	100~400 L/10a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内	5 回以内	
トマト	疫病 葉かび病			収穫前日まで				4 回以内	4 回以内 (土壌灌注は 2 回以内)
なす	すすかび病 うどんこ病 褐色腐敗病 黒枯病								4 回以内
はくさい	べと病 白斑病 黒斑病			収穫 7 日前まで	2 回以内			3 回以内 (は種又は 定植前の土 壌混和は 1 回以内、散 布は 2 回以内)	
だいこん	白さび病			収穫 45 日前まで	3 回以内			3 回以内	
にんじん	黒葉枯病			収穫 21 日前まで	2 回以内			5 回以内 (種子への 吹き付け処 理は 1 回以 内)	
たまねぎ	灰色かび病 べと病			収穫 7 日前まで	4 回以内			6 回以内	
ねぎ	べと病 さび病 黒斑病			収穫 14 日前まで	2 回以内			4 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、 散布は 2 回以内)	
にんにく	さび病			収穫 7 日前まで	3 回以内			3 回以内	6 回以内

(2) ブラジルにおける使用方法

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法
コーヒー	褐眼病 さび病	0.05kg/ha	収穫 21 日前まで	4 回以内	散布
	褐眼病 さび病 <i>Phoma</i> <i>costarricensis</i>				土壌灌 注

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

アゾキシストロビン

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出後、多孔性けいそう土カラムクロマトグラフィー、ヘキサン・アセトニトリルで分配し、フロリジルカラムクロマトグラフィー及びシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフィーで定量する。

検出限界 0.003~0.5ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 1.5%粒剤を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 35~50 日の最大残留量<sup>注1)</sup>は <0.01; <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 0.6%粒剤を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.01, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 8%フロアブルの 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 13<sup>注2)</sup>~28 日の最大残留量は 0.04, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 8%フロアブルの 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14 日の最大残留量は 0.03, 0.04 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布（800mL/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布（25L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は0.02, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び1.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後35～50日の最大残留量は0.84, 0.99 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び0.6%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は1.14, 0.54 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13<sup>註2)</sup>～28日の最大残留量は0.54, 0.94 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.52, 0.94 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布（800mL/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.64, 1.64 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布（25L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は2.32, 1.07 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

## ②小麦

小麦（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの原液を8mL/kg（種子処理）、並びに800倍希釈液（根雪前）及び2,000倍希釈液を計3回散布（いずれも100L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.10 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

③だいず

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200~250L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.02, 0.01 ppmであった。

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの8倍希釈液を計2回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は<0.01, 0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

④あずき

あずき(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(120L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.01, 0.01 ppmであった。

⑤いんげんまめ

いんげんまめ(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(150~300L/10a)したところ、散布後160~175日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥てんさい

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、17%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑦だいこん

だいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.44, 0.14 ppmであった。

⑧かぶ

かぶ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は2.36, 8.64 ppmであった。

かぶ（根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.04 ppmであった。

⑨はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの原液を8mL/kg（吹付コーティング）、及び2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.10 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

⑩キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.08, <0.01 ppmであった。

⑪こまつな

こまつな（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（214～400L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は<0.1, 2.5 ppmであった。

⑫大山そだち

大山そだち（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.76, 2.19 ppmであった。

⑬サガミグリーン

サガミグリーン（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.86, 0.92 ppmであった。

⑭しろな

しろな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.12, 2.34 ppmであった。



⑮畑わさび（花穂を除く）

畑わさび（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は5.86, 11.8 ppmであった。

畑わさび（根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.82, 0.73 ppmであった。

⑯エンダイブ

エンダイブ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後21～35日の最大残留量は<0.05, 1.18 ppmであった。

⑰レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200～300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.52, 2.94 ppmであった。

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3000L/10a（土壌灌注）及び2,000倍希釈液を計2回茎葉散布（200～300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は2.4, 2.5 ppmであった。

⑱たまねぎ

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑲根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（180～300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.96, 0.20 ppmであった。

⑳葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は1.42, 1.20 ppmであった。

㉑にんにく

にんにく（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

②にら

にら(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(150~200L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は1.10, 2.42 ppmであった。

③アスパラガス

アスパラガス(茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(250~300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.83, 0.13 ppmであった。

④らっきょう

らっきょう(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(150L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.02, 0.02 ppmであった。

⑤にんじん

にんじん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、4.8%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布(200~400L/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。

⑥パセリ

パセリ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(250L/10a)したところ、散布後45~60日の最大残留量は0.05, 0.33 ppmであった。

⑦みつば

みつば(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(100L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は1.6, 1.7 ppmであった。

⑧トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後1~8日の最大残留量は0.40, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑨ピーマン

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は1.18, 1.28 ppmであった。

③⑩なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.26, 0.58 ppmであった。

③⑪きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1000倍希釈液を100mL/株（株元灌注）、及び1,500倍希釈液を計3回散布（150～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.20, 0.48 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑫かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（293.3～300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.3, 0.3 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑬すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（168～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.01, <0.01 ppmであった。

③⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

③⑮オクラ

オクラ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（180～250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.22, 1.06 ppmであった。

③⑯さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.28, 1.30 ppmであった。

③⑰みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（3000L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は

0.50, 0.34 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑳りんご

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布(500L/10a)したところ、散布後42日の最大の残留量は0.23, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉑日本なし

日本なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布(500L/10a)したところ、散布後14~42日の最大残留量は0.60, 0.36 ppmであった。

日本なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布(500L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.68, 0.35 ppmであった。

㉒もも

もも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は<0.01, 0.01 ppmであった。

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は2.57, 6.42 ppmであった。

㉓ネクタリン

ネクタリン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.5, 1.4 ppmであった。

㉔すもも

すもも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.12, 0.09 ppmであった。

㉕おうとう

おうとう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は1.30, 0.47 ppmであった。

㉖いちご

いちご(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの1,500

～2,000倍希釈液を計5回散布(300L/10a)及び1,000倍希釈液を計3回土壌灌注(100mL/株)したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.20ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

いちご(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの1,500～2,000倍希釈液を計8回散布(300L/10a)したところ、散布後1～8日の最大残留量は1.18ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④⑤ぶどう

ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの100倍希釈液を300～500L/10a(休眠期散布)及び1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後45～75日の最大残留量は4.22, 1.68ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④⑥かき

かき(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300, 400L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.05, 0.36ppmであった。

#### ④⑦パッションフルーツ

パッションフルーツ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.33, 0.30ppmであった。

#### ④⑧いちじく

いちじく(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(230～300L/10a)したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.25, 0.57ppmであった。

#### ④⑨茶

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(4例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14～21日の最大残留量は4.75, 2.62, 0.80, 3.46ppmであった。

茶(浸出液)を用いた作物残留試験(4例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14～21日の最大残留量は2.50, 1.34, 0.42, 1.28ppmであった。

#### ⑤⑩びわ

びわ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.017, 0.008ppmであった。

⑤① うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布（250～300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.6, 0.7 ppmであった。

⑤② わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（150～400L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.1, 0.4 ppmであった。

⑤③ あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（150～200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は1.5, 0.8 ppmであった。

⑤④ シソ

シソ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回株元散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.11, 0.04 ppmであった。

⑤⑤ せり

せり（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.7, 0.8 ppmであった。

⑤⑥ マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.4, 0.5 ppmであった。

⑤⑦ クレソン

クレソン（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は<0.20, 0.26 ppmであった。

⑤⑧ 葉ごぼう

葉ごぼう（植物体全体）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は2.2, 1.6 ppmであった。

⑤⑨ ホトケノザ

ホトケノザ(茎葉)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(150L/10a)したところ、散布後30~60日の最大残留量は0.86 ppmであった。

⑥⑩ ゴギョウ

ゴギョウ(茎葉)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(150L/10a)したところ、散布後30~60日の最大残留量は0.36 ppmであった。

⑥⑪ みずな

みずな(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(265~391L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は0.4, 2.4 ppmであった。

⑥⑫ ズッキーニ

ズッキーニ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(250L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.2, 0.2 ppmであった。

⑥⑬ グアバ

グアバ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(139L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.03, 0.08 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑥⑭ ピタヤ

ピタヤ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(188L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は1.38, 0.26 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

これらの試験結果の概要については、別紙1-1を参照。

また、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙1-2を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験(いわゆる最大使用条件下の作物残留試験)を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

(参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」)

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

## 7. 乳牛における残留試験

乳牛に対してアゾキシストロビン 0、5、25、75、250ppm を含有する濃厚飼料(20kg/day) を牧草と共に 27～30 日間にわたり摂食させ(それぞれ 0、100、500、1500、5000mg/頭/day に相当)、牛乳、皮下脂肪、腹腔内脂肪、胸筋、大腿部の内転筋、肝臓及び腎臓に含まれるアゾキシストロビン含量を測定したところ、下記のとおりであった。なお、牛乳については、投与開始後 1、3、5、7、12、14、17、21、26、29、30、31 日目に搾乳したものを測定した。(検出限界：牛乳 0.001ppm、牛乳以外 0.01ppm)

上記の結果に関連して、米国では肉牛、乳牛及び豚における最大理論的飼料由来負荷(MTDB)はそれぞれ 74ppm、106ppm、10ppm と評価している。また、オーストラリアにおいては家畜への MTDB を 20.3ppm と評価している。

表. 組織中の最大残留 (ppm)

	5ppm 投与群	25ppm 投与群	75ppm 投与群	250ppm 投与群
大腿部内転筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
胸筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	0.01	0.05	0.07
腎臓	<0.01	<0.01	0.01	0.02
腹腔内脂肪	<0.01	<0.01	0.03	0.03
皮下脂肪	<0.01	<0.01	0.02	0.02
牛乳	0.003	0.006	0.004	0.009

## 8. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してアゾキシストロビン 0、6、18、60ppm (0、0.72、2.16、7.2mg/鶏/day) を含有する飼料を 28 日間にわたり摂食させ、筋肉、肝臓及び脂肪中のアゾキシストロビン含量を測定したところ最高投与群においていずれも <0.01ppm であった。また、鶏卵についても投与開始後 1、3、7、10、14、18、21、25、28 日に採卵し分析したところ、最高投与群においていずれも <0.01ppm であった。

上記の結果に関連して、米国では MTDB は 7ppm として、オーストラリアでは 0.003ppm と評価している。

## 9. ADI の評価

食品安全基本法(平成 15 年法律第 48 号)第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、平成 16 年 11 月 30 日付厚生労働省発食安第 1130001 号及び同法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 18 年 7 月 18 日付厚生労働省発食安第 0718005 号により食品安全委員会あて意見を求めたアゾキシストロビンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。



無毒性量：18.2 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌投与

(試験の種類/期間) 慢性毒性/発がん性併合試験/2年間

安全係数：100

ADI：0.18 mg/kg 体重/day

## 10. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合 (EU)、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国 (アスパラガス、大麦等)、オーストラリア (アボカド、バナナ等)、ニュージーランド (大豆、ぶどう等)、カナダ (ぶどう、なたね等) 及び EU (ラズベリー、にんじん等) において基準値が設定されている。

## 11. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

アゾキシストロビン本体

海外の作物残留試験においてメチル= (Z) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート (以下、「Z体」という。) が検出されており、米国等においてZ体も含めて規制を行っているが、海外の作物残留試験成績のうち大部分がアゾキシストロビンの 10%未満にとどまっていること及び国内の作物残留試験においてZ体について分析を行った試験 (10 試験) においては、いずれも検出限界未満 (0.01ppm) であることから、Z体については規制対象として含めないこととする。

なお、食品安全委員会によって作成された農薬評価書においては、暴露評価対象物質としてアゾキシストロビンを設定している。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

別紙2中でさとうきび及びカカオ豆については、現行 0.02ppm の基準値を設定しているが、これは、本来、食品衛生法第11条第3項の規定に基づき、「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて定める量」(一律基準) である 0.01ppm で規制するところ、分析法の状況を考慮し、0.01ppm までの分析が困難と考えられたことから 0.02ppm の残留基準を設定したものである。今回、本剤については 0.01ppm までの分析が可能となったことから、0.02ppm の基準を削除し、一律基準 (0.01ppm) で規制することとした。

また、乳に対しては複数の海外基準を参考に一律基準 (0.01ppm) より低い基準である 0.008ppm の基準値を設定したことに伴い、同じ畜水産物である魚介類及びはちみつ

に対して本来一律基準 (0.01ppm) で規制するところ、0.008ppm の基準値を設定した。乳牛における残留試験の結果から、乳の基準値を見直すことに合わせ、これらの基準値についても検討を行い、魚介類及びはちみつについては一律基準で規制することとする。

### (3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のアゾキシストロビンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量 (理論最大摂取量 (TMDI)) のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	理論最大摂取量 (TMDI) / ADI (%) <sup>注)</sup>
国民平均	27.1
幼小児 (1~6歳)	51.8
妊婦	20.7
高齢者 (65歳以上)	29.2

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

(4) 本剤については、平成17年11月29日付け厚生労働省告示第499号により、食品一般の成分規格7に食品に残留する量の限度 (暫定基準) が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

アゾキシストロビン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱 (箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日	圃場A:<0.01 (#) (4回、39日)
					35, 39, 46日	圃場B:<0.01 (#) (4回、35日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱 (箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日	圃場A:0.01 (#) (4回、14日)
					14, 21, 28日	圃場B:0.02 (#) (4回、14日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日	圃場A:0.04 (#) (4回、13日)
					14, 21, 28日	圃場B:0.02 (#) (4回、28日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.03 (#) 圃場B:0.04 (#)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:<0.01 (#) 圃場B:0.02 (#)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:0.02 (#) (4回、14日) 圃場B:0.02 (#) (4回、21日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱 (箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日	圃場A:0.84 (#) (4回、41日)
					35, 39, 46日	圃場B:0.99 (#) (4回、35日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱 (箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日	圃場A:1.14 (#) (4回、14日)
					14, 21, 28日	圃場B:0.54 (#) (4回、14日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日	圃場A:0.54 (#) (4回、20日)
					14, 21, 28日	圃場B:0.94 (#) (4回、14日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.52 (#) 圃場B:0.94 (#)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:0.64 (#) 圃場B:1.64 (#)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:2.32 (#) (4回、14日) 圃場B:1.07 (#) (4回、14日)
小麦※ (種子)	2	20%フロアブル	原液 8mL/kg(種子処理) +800倍根雪前散布 100L/10a +2000倍散布 100L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 (#) 圃場B:0.10 (#)
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~250L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.01
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	2回	21日	圃場A:<0.01 (#) 圃場B:<0.01 (#)
あずき (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 120L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.01 圃場B:0.01 (3回、14日)
いんげんまめ (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 (#) 圃場B:<0.01 (#)
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	17%フロアブル	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01 (#) 圃場B:<0.01 (#)
だいこん (根部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
だいこん (葉部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.44 圃場B:0.14
かぶ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.36 圃場B:8.64

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
かぶ (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04(2回、14日)
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	原液 8mL/kg (吹付コーティング) +2000倍散布 300L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.10(＃)(5回、7日)
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.06
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.08 圃場B:<0.01
こまつな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 214~400L/10a	2回	21日	圃場A:<0.1 圃場B:2.5
大山そだち (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	21日	圃場A:0.76 圃場B:2.19
サガミグリーン (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	21日	圃場A:0.86 圃場B:0.92
しろな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	14日	圃場A:0.12 圃場B:2.34
畑わさび (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:5.86 圃場B:11.8
畑わさび (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:0.82(2回、14日) 圃場B:0.73
エンダイブ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28, 35日	圃場A:<0.05 圃場B:1.18
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~300L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:1.52 圃場B:2.94(4回、14日)
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍土壌灌注 3000L/10a+茎葉散布 200~300L/10a	4回	7, 14日 7, 13日	圃場A:2.4 圃場B:2.5
たまねぎ※ (鱗茎)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.02(＃)(4回、1日) 圃場B:<0.01(＃)(4回、1日)
根深ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.96 圃場B:0.20
葉ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.42(4回、7日) 圃場B:1.20
にんにく (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300, 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
にら (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	2回	14日	圃場A:1.10 圃場B:2.42
アスパラガス※ (茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250~300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 6日	圃場A:0.83 圃場B:0.13
らっきょう (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.02(3回、7日) 圃場B:0.02
にんじん※ (根部)	2	4.8%フロアブル	1000倍散布 200~400L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.02 圃場B:<0.01
パセリ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	1回	45, 60日	圃場A:0.05(1回、60日) 圃場B:0.33
みつば (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100L/10a	1回	14, 21日	圃場A:1.6 圃場B:1.7

農作物	試験圃 場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
トマト※ (果実)	2	20%フロアブル	1500倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.40(＃)(4回、1日)
					1, 3, 8日	圃場B:0.09(＃)(4回、8日)
ピーマン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:1.18 圃場B:1.28
なす (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.26 圃場B:0.58
きゅうり※ (果実)	2	20%フロアブル	1000倍株元灌注 100mL/株 +1500倍散布 150~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.20(＃)(4回、1日) 圃場B:0.48(＃)(4回、1日)
かぼちゃ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 293.3~300L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.3 圃場B:0.3
すいか (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 168~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.01(4回、7日) 圃場B:<0.01
メロン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
オクラ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:1.22 圃場B:1.06
さやえんどう (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.28(3回、3日) 圃場B:1.30
みょうが (花穂)	2	20%フロアブル	2000倍散布 3000L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.50(4回、3日)(＃) 圃場B:0.34(4回、3日)(＃)
りんご (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	42日	圃場A:0.98(＃) 圃場B:0.14(＃)
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	14, 28, 42日	圃場A:0.60 圃場B:0.36
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.68 圃場B:0.35
もも (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
もも (果皮)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:2.57 圃場B:6.42(3回、3日)
ネクタリン※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.5(3回、3日)
					1, 3, 7, 14日	圃場B:1.4
すもも (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300~400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.12 圃場B:0.09
おうとう※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:1.30(3回、3日) 圃場B:0.47
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a +1000倍土壌灌注 100mL/株	8回	1, 3, 7日	圃場A:1.20(＃)(8回、1日)
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a	8回	1, 4, 8日	圃場A:1.18(＃)(8回、1日)
ぶどう※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍休眠期散布 300~ 500L/10a+1000倍散布 500L/10a	4回	45, 60, 75日	圃場A:4.22(＃)(4回、45日)
					45, 59, 75日	圃場B:1.68(＃)(4回、45日)
かき※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300, 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.05 圃場B:0.36

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
パッション フルーツ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.33 圃場B:0.30
いちじく (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 230~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.25 圃場B:0.57
茶※ (荒茶)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:4.75 圃場B:2.62 圃場C:0.80 圃場D:3.46
茶 (浸出液)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:2.50 圃場B:1.34 圃場C:0.42 圃場D:1.28
びわ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.017 圃場B:0.008
うめ (果実)	2	10%フロアブル	1500倍散布 250~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.6(3回、7日) 圃場B:0.7
わけぎ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~400L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.1 圃場B:0.4
あさつき (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.5 圃場B:0.8
シソ (葉)	2	10%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.10 圃場B:0.04
せり (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日 7, 12, 20日	圃場A:0.7(4回、14日) 圃場B:0.8
マンゴー (果実)	2	10%フロアブル	100倍散布 200L/10a	1回	1, 3, 7日	圃場A:0.4 圃場B:0.5
クレソン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A:<0.20 圃場B:0.26
葉ごぼう (植物体全体)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28日	圃場A:2.2 圃場B:1.6
ホトケノザ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.86
ゴギョウ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.36
みずな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 265~391L/10a	2回	21日	圃場A:0.4 圃場B:2.4
ズッキーニ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.2 圃場B:0.2
グアバ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 139L/10a	3回	14, 21日 7, 14, 21日	圃場A:0.03(＃)(3回、14日) 圃場B:0.08(＃)(3回、7日)
ピタヤ※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍散布 188L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:1.38(＃)(3回、1日) 圃場B:0.26(＃)(3回、1日)

(＃) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(※) 印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用し最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「アゾキシストロビン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

## アゾキシストロビン海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
稲 (籾米)	7	80%顆粒水和剤	224g ai/ha 散布 +336g ai/ha 散布	2+1回	28日	圃場A:0.30 圃場B:2.7 圃場C:2.2 圃場D:0.41 圃場E:0.19 圃場F:0.27 圃場G:0.82
小麦 (穀粒)	5	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	40日 48日 48日 48日 39日	圃場A:0.01 圃場B:0.03 圃場C:0.02 圃場D:0.02 圃場E:0.03
大麦 (穀粒)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	38日 53日 55日	圃場A:0.23 圃場B:0.14 圃場C:0.07
とうもろこし (穀粒)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	8回	7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:0.02 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01
大豆 (種子)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	14日 15日 14日 16日 14日 14日 14日	圃場A:0.04 圃場B:0.12 圃場C:0.12 圃場D:0.07 圃場E:0.06 圃場F:0.06 圃場G:0.02
らっかせい (種子)	9	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	2回	14日 14日 14日 14日 14日 14日 20日 14日 14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01 圃場C:0.01 圃場D:0.12 圃場E:0.01 圃場F:<0.01 圃場G:<0.01 圃場H:0.06 圃場I:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	1500g ai/ha 土壌混和	1回	108日 118日 95日 116日	圃場A:0.01 圃場B:0.01 圃場C:0.01 圃場D:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	750g ai/ha 畝間散布	1回	108日 118日 95日 116日	圃場A:0.01 圃場B:0.02 圃場C:0.01 圃場D:0.03

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ぼれいしょ (根茎)	14	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	14日	圃場A:0.01 圃場B:<0.01 圃場C:0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01 圃場F:0.02 圃場G:<0.01 圃場H:<0.01 圃場I:<0.01 圃場J:<0.01 圃場K:<0.01 圃場L:<0.01 圃場M:<0.01 圃場N:<0.01
てんさい (根茎)	9	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.03 圃場B:0.05 圃場C:0.18 圃場D:0.08 圃場E:0.04 圃場F:0.10 圃場G:0.11 圃場H:0.08 圃場I:0.05
ラディッシュ (根茎)	5	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.41 圃場B:0.26 圃場C:0.14 圃場D:0.39 圃場E:0.11
ラディッシュ (葉)	5	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:23.6 圃場B:31.4 圃場C:12.8 圃場D:9.9 圃場E:14.3
クレソン (茎葉)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	3回 ----- 6回	7日	圃場A:0.117 圃場B:0.475 圃場C:0.511 圃場D:<0.0676 圃場E:1.32
キャベツ (葉) ※外葉あり	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:1.76 圃場B:0.90 圃場C:0.321 圃場D:1.99
キャベツ (葉)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.176 圃場B:0.101 圃場C:0.0251 圃場D:0.174
芽キャベツ (茎葉)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04 圃場C:0.05



農作物	試験圃場	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
ケール (茎葉)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日 13, 21日	圃場A:0.08 圃場B:0.32 圃場C:0.31 (2回、21日)
マスタード (葉)	9	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 135-280g ai/ha 散布	6回	0, 6日 0日 0日 0, 7日 0日 0, 7日 0, 6日 0日 0日	圃場A:4.81 圃場B:14.7 圃場C:4.36 圃場D:5.60 (6回、7日) 圃場E:12.2 圃場F:10.7 (6回、7日) 圃場G:21.0 圃場H:7.52 圃場I:7.19
ブロッコリー (花穂)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7日 0日 0, 4, 6日 0日	圃場A:0.804 (6回、7日) 圃場B:1.29 圃場C:2.13 圃場D:0.187
カリフラワー (花穂)	4	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.06 圃場C:0.17 圃場D:0.15
アーティチョーク (葉)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:1.6 圃場B:1.7 圃場C:2.3
レタス (葉)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:2.49 圃場B:3.37 圃場C:3.43 圃場D:3.77 圃場E:2.47 圃場F:4.70 圃場G:3.39 圃場H:2.11
リーフレタス (葉)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:6.1 圃場B:3.5 圃場C:4.4 圃場D:10.0 圃場E:8.2 圃場F:4.9 圃場G:13.5 圃場H:2.7
たまねぎ (鱗茎)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.55 圃場B:0.20 圃場C:0.45 圃場D:0.30 圃場E:<0.01 圃場F:0.14 圃場G:0.28 圃場H:0.07
ねぎ (茎葉)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:5.5 圃場B:1.4

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ねぎ (茎葉)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:1.2 圃場B:1.4 圃場C:2.3 圃場D:0.58
ねぎ (茎葉)	4	22.8%フロアブル	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:1.0 圃場B:1.9 圃場C:2.0 圃場D:0.19
にんじん (根茎)	6	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.17 圃場B:0.11 圃場C:0.23 圃場D:0.02 圃場E:0.29 圃場F:0.13
パセリ (茎葉)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:19.7 圃場B:14.2
セルリー (根茎)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:2.1 圃場B:3.8 圃場C:9.1 圃場D:3.2 圃場E:2.3 圃場F:4.6 圃場G:5.6 圃場H:2.2
きゅうり (果実)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.08 圃場B:0.06 圃場C:0.05 圃場D:0.04 圃場E:0.09 圃場F:0.07 圃場G:0.05
サマースカッシュ (果実)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.08 圃場B:0.10 圃場C:0.05 圃場D:0.05 圃場E:0.11
カンタローブ (果実)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.17 圃場B:0.14 圃場C:0.10 圃場D:0.19 圃場E:0.25 圃場F:0.1
ほうれんそう (茎葉)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	6日 0日 0日 6日 0日 0.7日 0日	圃場A:2.28(6回、6日) 圃場B:18.5 圃場C:8.25 圃場D:2.81(6回、6日) 圃場E:23.0 圃場F:13.6 圃場G:12.5

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ほうれんそう (茎葉)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:16 圃場B:6.2 圃場C:10.1 圃場D:9.6
ほうれんそう (茎葉)	4	22.8%フロアブル	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:14 圃場B:5.0 圃場C:7.7 圃場D:12.0
未成熟豆類※ (莢付豆)	3	80%顆粒水和剤	13.9g ai/km 畝間 +280g ai/ha 散布	1+6回	0日	圃場A:0.38(1+6回、0日) (#) 圃場B:0.10(1+6回、0日) (#) 圃場C:1.0(1+6回、0日) (#)
多肉未成熟豆類※ (豆)	1	80%顆粒水和剤	13.9g ai/km 畝間 +280g ai/ha 散布	1+6回	0日	圃場A:0.02(1+6回、0日) (#)
レモン (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量60~ 68gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.69 圃場B:0.63 圃場C:0.58
レモン (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量221~235 gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.42 圃場B:0.47 圃場C:0.27
オレンジ (果実)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:0.44 圃場B:0.28 圃場C:0.83 圃場D:0.56
オレンジ (果実)	4	フロアブル (208lb/gallon)	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:0.23 圃場B:0.35 圃場C:1.05 圃場D:0.72
グレープフルーツ (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量53~ 67gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.18 圃場B:0.20 圃場C:0.18 圃場D:0.18
グレープフルーツ (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量217~242 gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.24 圃場B:0.24 圃場C:0.37
ラズベリー※ (果実)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	7回 6回	0日 0日	圃場A:0.69 (7回、0日) (#) 圃場B:2.33
ブラックベリー※ (果実)	1	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	7回	0日	圃場A:2.87 (7回、0日) (#)
ブルーベリー※ (果実)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	0日 0,7日	6回	圃場A:1.33 (6回、0日) (#) 圃場B:0.493 (6回、0日) (#) 圃場C:0.918 (6回、0日) (#) 圃場D:0.677 (6回、0日) (#) 圃場E:0.869 (6回、0日) (#) 圃場F:0.857 (6回、0日) (#) 圃場G:1.06 (6回、0日) (#)
クランベリー (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	3,14日 3,13日 3,15日 3,14日	圃場A:0.151 (6回、14日) 圃場B:0.257 圃場C:0.282 圃場D:0.181
バナナ (果実) (無袋)	6	80%顆粒水和剤	151g ai/ha 散布	8回	0日	圃場A:0.10 圃場B:0.18 圃場C:0.10 圃場D:0.21 圃場E:0.25 圃場F:0.15

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
バナナ (果実) (袋詰)	6	80%顆粒水和剤	151g ai/ha 散布	8回	0日	圃場A:0.04 圃場B:0.01 圃場C:0.02 圃場D:0.05 圃場E:0.02 圃場F:0.13
マンゴー (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.243 圃場B:0.0686 圃場C:0.444
ライチ (果実)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	5回	0日	圃場A:1.66 圃場B:0.231
パパイヤ (果実)	2	500g ai/kg	80g ai/ha 散布 160 g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7, 10, 14日	圃場A:0.16 (6回、0日) 圃場B:0.49 (6回、0日)
綿実 (種子)	12	80%顆粒水和剤	18.6g ai/km 畝間散布	1回	202日 180日 182, 217日 184, 237日 166日 163, 218日 161, 205日 182日 190日 207日 148, 198日 161, 215日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01 圃場G:<0.01 圃場H:<0.01 圃場I:<0.01 圃場J:<0.01 圃場K:<0.01 圃場L:<0.01
なたね (種子)	1	水和剤 (250g ai/L)	250g ai/L 散布	2回	21, 23日	圃場A:0.05
なたね (種子)	1	フルトリアフォル 水和剤	200g ai/L 散布	2回	21, 23日	圃場A:0.03
キャノーラ (種子)	2	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	1回	71日 65日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
アーモンド (種子)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	29日 29日 29日 29日 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01
ピスタチオ (種子)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	7日	圃場A:0.406 圃場B:0.354 圃場C:0.244
ホップ (新鮮穂軸)	2	フロアブル (250 g ai/L)	250g ai/ha 散布	6回	28日 26日	圃場A:3.2 (6回、28日) (#) 圃場B:3.4 (6回、26日) (#)
ホップ※ (乾燥穂軸)	4	フロアブル (250 g ai/L)	250g ai/ha 散布	6回	28日 26日	圃場A:12 (6回、28日) (#) 圃場B:10 (6回、28日) (#) 圃場C:15 (6回、26日) (#) 圃場D:9.3 (6回、26日) (#)

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ディル (種子)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:6.20 圃場B:17.4 圃場C:23.3
バジル (葉)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回 5回 6回	0日	圃場A:46.3 圃場B:23.3 圃場C:19.3
ピーマン※ (果実)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回 7回	0, 8日 0, 6日 0日 0, 7日 0日	圃場A:0.107 (6回、8日) (#) 圃場B:0.369 (6回、0日) (#) 圃場C:0.314 (6回、0日) (#) 圃場D:0.242 (6回、7日) (#) 圃場E:0.136 (7回、0日) (#)
とうがらし※ (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回 8回	0, 8日 0日 0日 0日	圃場A:0.834 (6回、0日) (#) 圃場B:0.499 (6回、0日) (#) 圃場C:0.059 (6回、0日) (#) 圃場D:0.915 (8回、0日) (#)
コーヒー豆※ (種子)	1	80%顆粒水和剤	50g ai/ha 散布	5回	21, 28, 35, 42日	圃場A:<0.01 (5回、21日) (#)

海外で実施された作物残留試験のうち、作物残留試験が実施された国の使用方法の範囲内で試験が行われていない試験成績等については記載していない。

ただし、作物名に「※」が記されている未成熟豆類、多肉未成熟豆類、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、ホップ、ピーマン、とうがらし及びコーヒー豆の試験については作物残留試験が実施された国における使用方法の範囲外で実施されているものの、作物残留試験条件等を考慮し、基準値設定の際の参考とすることとした。

一部の作物残留試験については、各国政府の要請により記載していない。

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「アゾキシストロピン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。